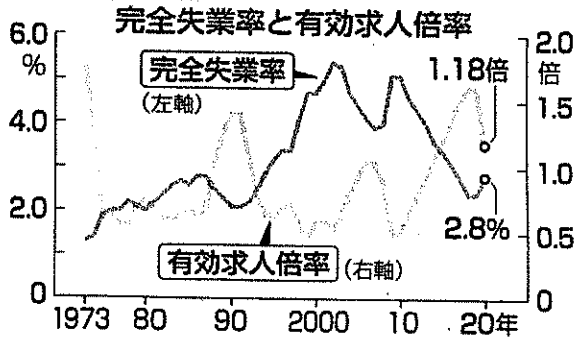


求人倍率 45年ぶり急落

20年平均 非正規初めて減少



厚生労働省が29日発表した労働力調査によると、2020年平均の有効求人倍率は1・18倍で、前年比0・42倍低下しました。低下幅は第1次石油危機後の1975年(0・59倍)以来45年ぶりの大きさ。新型コロナウイルス感染拡大による企業業績悪化で求人数が2割落ち込む一方で、解雇や雇い止めが増え求職者数が増しました。

一方、総務省が同日発表した。20年平均の非正規労働者数は前年比75万人減の2090万人で、前年と比較可能な14年以降初めて減少しました。20年平均の完全失業率は0・4倍上昇の2・8%。完全失業者数は29万人増の191万人で、ともに11年ぶりに悪化しました。休業者数も比較可能な68年以降で最多の256万人で、

求人倍率は、ハローワークに申し込んだ求職者1人当たりの求人数。20年の下落幅は、リーマン・ショック後の09年(0・41倍)を超えました。コロナによる雇用環境の悪化で、求人数が21・0%減となった一方、求職者数は6・9%増加。コロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言や外出自粛によって大きな打撃を受けた宿泊業・飲食サービス業で落ち込みはより鮮明でした。

同時に発表された12月の有効求人倍率(季節調整値)は、前月比横ばいの1・06倍。同月の完全失業率(同)も横ばいの2・9%でした。